

豊田工業大学 入学式 学長式辞

本日、豊田工業大学にご入学・ご進学なされた皆さんに、心から歓迎の気持ちをお伝え致します。おめでとうございます。学び舎として本学をお選び頂き、有難うございます。ご家族の皆さまも、おめでとうございます。本年4月に、入学・編入学あるいは進学をされて、本学のお仲間に加わられた方々は、学部1年108名、学部3年4名、修士1年50名、そして博士1年1名の皆さんです。

大学生活は、皆さんがやがて社会人として活動するための大切な助走期間です。学修、研究、そして課外活動を通し、社会人として世界に貢献してゆくための力を十分に鍛錬して頂きたいと思えます。大学の主役は学生の皆さんですから、皆さんの活動が本学の活力の源泉です。念のため申しますが、大学での活動の主目的は、良い就職先を探すことではありません。ご自身の能力を本質的に伸ばすことです。これができれば、皆さんには、おのずと広範な未来が開かれます。

本学は、トヨタ自動車の社会貢献活動の一環として1981年に開学しました。以来、関連企業の皆様からのご支援に支えられ、本務である教育と研究に関し自由で闊達な活動を展開して参りました。2020年夏にはキャンパスリニューアルが完了し、教育と研究のファシリティが刷新されました。2021年には、開学40周年を迎えています。この間のご関連の皆様方からのご支援・ご鞭撻に、深く感謝申し上げます。

さて、10日前、侍ジャパンのメンバーは、WBC: World Baseball Classic で見事に優勝を果たしました。皆さんも、感動なされたことでしょうか。準決勝の試合で村上宗隆選手が決勝打を放って「さよなら勝ち」をした直後に、栗山監督が「野球って凄げえなあ、と思って頂けたら最高です」と言われた言葉が、私には、強く印象に残っています。

侍ジャパンの選手の皆さんを見ていて思ったのですが、「世界一流の腕前を持った凄い方々には、優しく穏やかなお顔の人が多いな」と。侍チームメンバーの心を掴んで優勝に導いた栗山英樹監督もそうですが、大谷翔平選手、吉田正尚選手、山本由伸選手、村上宗隆選手、そして、2月中旬からチームの纏め役を務めてきたダルビッシュ有選手も、私にはそう見えました。闘志は漲っていますが、「優しさ」も「品格」も感じられる方々であると、思いました。大谷選手が、高校生のころから、「目標達成シート」を作ってそれを実践してこられた話しは有名ですね。

「艱難辛苦汝を玉にす」という言葉があります。「人は困難に直面し、苦しみ悩みながら克服してゆくことで立派な人間になってゆく」、という意味です。WBCチームに選ばれた選手の皆さんは、間違いなく、人知れず並々ならぬ努力を積み重ねられて腕前を上げて来られたのでしょうか。そして、失敗しつつも種々考える過程で、心も磨かれ、「優しさ」と「品格」をも培われたのではないかと推察いたします。スポーツのみならず、何かを極める努力を続けることが、ひとを人として育ててく

れるのだと思います。結果として、凄い選手にはなれなかったとしても、です。

皆さんは、これから、本学で、「学修」と「研究」、ならびに課外での諸活動を展開されます。これら活動にも、きっと苦勞が伴います。ということは、スポーツ選手の皆さんと同様に、苦勞しつつも自ら考え工夫して打ち克つ過程において、皆さんも、学修と研究の直接的な成果のみならず、心が磨かれ、人として成長してゆくことになるものと、期待しています。

研究活動で極めて大きな成果を示した代表者として、ノーベル賞受賞者の方々がおられます。お会いしたことがあるその方々も、優しく品格あるお顔でありました。青色発光ダイオードの発明者である赤崎 勇先生、天野 浩先生、ニュートリノ研究者の梶田隆章先生、通信用光ファイバの提案者であるチャールズ・カオ先生、オートファジーの大隅良典先生に、そのような感想を抱きました。

さて、世界は、今も、大きく揺れ動いています。パンデミック、戦争、環境問題、等々です。皆さんには、これらにも注意を払い、常にご自身の意見を持ち、社会的責任を果す社会人になることが求められています。本学は工学系の単科大学ですが、4年制大学の責務として、優れた技術者・研究者になっていただくだけでなく、社会人としての見識も高めた存在へと成長して頂きたいと、願っています。

そのために、本学には、専門の学修と研究の他に、人文学、社会科学、語学、健康・体力学、等々の科目も用意されています。数学、物理学、化学等の理系の基礎科目も、もちろん、あります。種々の体験が蓄積できる仕組みも整っています。実験・実習、学外実習、海外語学研修、海外研究実習、インターナショナルプラザでの活動、寮生活、サークル活動、学園祭、等々です。もちろん、皆さん独自で読書をされたり旅に出たりと、様々な活動もなさるでしょう。4年次には卒業研究も行います。学部は、基本的に、「学修」に重きを置いた「課程」です。一方で、大学院修士・博士課程は、「研究」に重きを置いた「課程」です。

「学修」と「研究」の活動は別々の営みではなく、これらは「皆さんが成長する」という大学が果すべき機能を駆動する「両輪」なのであって、皆さんの「力」を、幅広く深く鍛錬するための二つの「手立て」なのです。「学修」活動を通じて獲得すべきは、「知識の記憶」ではありません。「理解」です。「帰結」には理由があり、「理解」とは「帰結に対応した理由に納得するまで考える」ことです。理由を手繰っている間はまだ納得できていないのですから、この学修方法は未知への挑戦です。したがって、「理由を手繰り納得する」学修法は「研究力」も涵養してくれます。

実際、「研究」遂行に必要な態度も、「帰結に対応した理由に納得するまで考える」態度です。この態度は、「論理的に考える」ことなので、「学修」「研究」の活動によって、社会活動全般で役に立つ「汎用力」としての「論理的思考力」も、付随して身に着きます。「汎用力」には、「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」「協働力」などありますが、これら「汎用力」の獲得には学修・研究の方法

に工夫が必要です。「暗記する学修法」では、全く役に立ちません。

このように、大学での諸活動を通して、皆さんは、専門分野において体系的な「知識と理解」を得ると同時に、やがて社会でご活躍になる際に重要な様々な「汎用力」を獲得することもできます。加えて、この間のご苦労とご努力は、皆さんの心を磨いてもくれて、人として大きく成長することにもなるのです。ただし、このプロセスで最も大切なことは、「常に自ら考える」ということです。そこで、私が大切にしている言葉を、今日も、皆さんにお伝えします。「学びて思はざれば則ち罔く、思ひて学ばざれば則ち殆ふし。」論語の一節です。

さて、「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んず可からず、未だ覚めず池塘春草の夢、階前の梧葉已に秋声」という漢詩があります。「偶成」と題された朱熹の作です。「若者はアツという間に年をとってしまい、学問はなかなか完成しにくい。だから、少しの時間でも輕輕しく過ごしてはならない。池の堤の若草の上でまどろんだ春の日の夢がまだ覚めないうちに、階段の前の青桐の葉には、もう秋風の音が聞かれる。」

私がこの漢詩に出会ったのは、高校1年の漢文の授業でした。原稿用紙にこの漢詩などの白文をつけペンで写していた頃を思い出しましたが、あれから既に56年の月日が流れています。正に、「少年老い易く」と、痛感する次第です。

皆さんは、ここ豊田工業大学で、大学生・大学院生としての大切な時間を過ごされることになりました。前述のように、この時間に、皆さんは大きく成長する可能性をお持ちです。皆さんが自ら手に入れたこの「空間」と「時間」とを、どうぞ大切に、どうぞ有効に、活用して頂きたいと思います。そして、やがて卒業・修了を迎えるそのときに、「大学って凄ごいなあ、とと思って頂けたら最高です。」私たちも最善を尽くします。

あらためまして、ご入学・ご進学、おめでとうございます。

2023年4月1日

豊田工業大学 学長 保立和夫